

No.629

法音

令和4年
3月号

日蓮宗
法音寺

今月のご法話

修養して人間を磨きましょう

勇猛精進

まこと
至誠

今日一日

奉仕の心がけで働きましょう

今日一日

人を喜ばせるように働きましょう

今日一日

たゆまず続けてゆきましょう

月刊・法音 令和4年3月号 No.629 目次

【信仰の指針】修養しゆよう 日々の務めを怠ることなく続けましょう 1

【朝のこない夜はない】

修養して人間を磨きましょう 山首 鈴木正修 2

◆ 講日のご案内 17

◆ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 18

◆ 育成道場のお知らせ 20

◆ 仏教説話・徳積みに終点はない 21

◆ 仏教タイムスに『転法輪』が紹介されました 29

◆ 知っているようで知らなかつた!? 法音寺のこと 27

◆ お寺の本棚 34

◆ 久遠偈を学ぶ③ 36

◆ のりのね体験 40

◆ 得度の喜び・支院だより 43

◆ 福祉のひろば 55

○ 幸せのお手伝い 56

○ 昭徳会・太鼓クラブを通して 58

○ 日本福祉大学I部サッカー部 58

○ 名古屋グランパスのホーム戦で運営サポートを行いました 60

◆ 賛助員ご芳名 62

◆ 幸せの種まき／編集後記 62

◆ 連載まんが・ひまわり・110 愚痴 64

◆ 法音寺の社会福祉・教育事業 65

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま書

表紙写真・梅の花

掲載写真 表紙・信仰の指針・3～17頁・梅田雅臣氏撮影

2頁・加納将人氏撮影

信仰の指針

しゅう
よう

修養

日々の務めを

怠ることなく続けましょう

日教

五



フジバカマ



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

修養しゅうようして人間にんげんを磨みがきましよう

本年ほんねんは36年ねんに一度いちどの「五黄ごわうの寅とら」という年としです。九星せいき気き学がくと十二支じふにしの組くみ合あわせの中なかでも最もも運うん気きが強つよい年としとされ
ています。また十干じふかん十二支じふにしでは「壬寅みずのえとら」という年としです。こ
れは、陽よう気きを孕はらみ、春はるの胎たい動どうを助たすける、という意い味みで、冬ふゆ
が厳きびしい程ほど春はるの芽め吹ぶきは生せい命めい力りきにあふれ、華はな々ばなしく生うまれ
出でる年としになるといふことことです。

世界せかいの人々ひとびとが長ながく苦くるしんだコこロろナが終しゆう息そくし、新あらたな時じ代だい
が力ちから強つよく始はじまることことを象しょう徴ちゆうしてしているようように感かんじまます。

今ことし年は例れい年ねんにも増まして、誓ちかいを新あらたにして、徳とくを重かさねて
いかなおもばと思おもいます。



マザーテレサの言葉です。

「思考に気をつけなさい。それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい。それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい。それはいつか性格になるから。
性格に気をつけなさい。それはいつか運命になるから」

昔、芥川龍之介が「人の運命はその人の性格の中にある」と言いましたが、延いては思考、思いの中にあるということとです。

年の初めにどういう思いを持つか、どういう思いでその年を始めるかが、その年の運命を左右する大事な要素だと思えます。

また、お誓いや思いを持って一年を始めるのですが、そ



の思おもいを継けい続ぞくさせることが殊ことに大だい事じです。これを精しょう進じんとか修しゅう養ようといいます。日に達たつ上しょう人にんが「トイレを使つかって出でる時ときに履はき物ものを揃そろえる。これを続つづけるだけでも大おおきな徳とくになる」とよよくおおっししゃっていました。

女じょ優ゆうの三みつ林ばやし京きょう子しさんのお話はなしです。

三みつ林ばやしさんは大おお阪さか芸げい術じゆつ大だい学がくの短たん期き大だい学がく部ぶで演えん劇げきの身しん体たい表ひまげん現げんを教おしえていました。その時ときに、ままず姿し勢せいと挨あい拶さつを徹てつ底てい的てきに教おしえたといいました。特とくに挨あい拶さつです。「先せん生せい、どどうしてそそんなに挨あい拶さつが大だい事じなんなんなですか」と尋たずねる生せい徒とに、三みつ林ばやしさんは「何なにを言いっているの。人にん間げんとしての基き本ほん中ちゆうの基き本ほんですよ。」
これこれがきちんとできたら、あとは自し然ぜんにできるものよと
言いわれたそうです。

その学がく校こうでは毎まい年とし、新しん入にゅう生せいがはいってくると上じょう級きゅう生せいが「学がく



長「学部長」、「学食のおばちゃん」、「掃除のおじさん」というような名札をつけて校庭に立っています。あらかじめ新入生には「門をくぐってから名札をつけている人を見つけたら、全員に挨拶をしてから校舎に入りなさい」と伝えておきます。新入生達は名札を見て、学長だと「おはようございます」と丁寧に挨拶し、掃除のおじさんだと「おはよう」と通り過ぎていくそうです。それを見て、三林さんは叱りました。

「どうしてあなたは役職によって挨拶を変えるんですか？」叱られた女子学生はワンワン泣いたそうです。そこから学生達の態度が変わり始めるのだそうです。

三林さんは言われます。

「卒業して多くの学生がオーディションを受けます。その時に挨拶をしただけで、『合格』と言われた学生が何人も



いました」

一つのことを、しっかり続けただけでこのように人間が変わっていくということなのです。

法音寺は御開山上人の時代に日蓮宗のお寺になりましたが、それまでは在家教団でした。最初は「仏教感化救済会」という名前でした。昭和の初期からは「仏教修養団」、以降「仏教樹徳修養団」、「大乘修養団」と、一貫して「修養団」と名乗ってきました。これは先師が、いつの時代にも修養が大事である、ということに主眼を置いてこられた証拠だと思えます。

昨今はあまり修養という言葉を使わなくなりました。修養なんて堅苦しい、という思いが現代人にはあるのかもしれません。先師の時代、日本は修養の時代でした。



かつて講談社に『修養全集』（全十二巻）というものがありました。第一巻の最初に東郷平八郎元帥の「誠」という揮毫があり、次にお釈迦さまとキリストと孔子が鼎談をしている絵があります。この全集はとても高価でしたが、売れに売れました。今の講談社の礎がこれによって築かれたというくらいに売れたそうです。それくらい昔の人は修養を重んじていたということです。

同じ頃、新渡戸稲造博士の『修養』という本も明治44年9月3日に初版が出て、二カ月後に十一版が出ています。修養の本が二カ月間で十一回も版を重ねたのです。まさに修養の時代です。

私がこの本を知ったきっかけは上智大学の名誉教授だった渡部昇一先生が講演で、自分の恩書として紹介されたことです。読んでみて非常に感銘を受けました。



新渡戸稲造博士は母子家庭でした。お母さんがとても教育熱心な人でした。小学校の高学年ぐらいから国内留学をさせました。子どもですからお母さんのものを離れたくありません。だから留学先で「帰りたい」という手紙を書きました。その都度、お母さんが「もう少し頑張りなさい。ちゃんと学問を修めてから帰ってきなさい」という手紙のやり取りが何度もありました。

その後、札幌農学校（現・北海道大学）に入って、一年生の時に最優秀の成績を取りました。直ぐに「最優秀の成績を修めることができました。母上にその成績を見せに帰りたいと思います」と手紙を書いて盛岡の家に帰ると、お母さんは三日前に亡くなっていました。もう悲しくて悲しくて、ノイローゼになってしまいました。頑張って頑張ってついにお母さんに会えると喜び勇んで帰ったら、お母さ



んが亡なくなっていったのです。ノイローゼにもなります。

たまたまその時とき、札幌農学校の図書室としょしつにあったアメリカの雑誌ざっしにトーマス・カーライルという人のことが書いてありました。その記事きじを読んで、この人は自分の悩みなやをわかっていて。この人の本ほんをぜひ読よみたいおもと思いました。ところが札幌農学校さつぱろのうがっこうにはカーライルの本ほんがありませんでした。上京じやうきやうまでして探さがしましたが、どこにもありません。あきらめかけた時ときに、洗礼せんれいを授さずけてくれたハリス牧師ぼくしがアメリカに帰かえることになり「自分の蔵書ぞうしょを置おいていくので、欲しいものがあつたら自由じゆうに持もって行きなさい」と言いわれました。その中なかにカーライルの『服装哲学』いしやうてがく（原題げんたい サータ・リサーチタス）という本ほんがありました。博士はくしはこの本ほんをもらって読よみました。生涯しやうがいに三十回かい以上いじょうく繰かえり返かえし読よんだといいいます。非常ひじょうに難むずかしい本ほんですが、人の外見がいけんを全ぜん部ぶはぎ



取って考えたらどうなるか。それは結局魂である。魂しか残らない。この魂を磨くことが大事だと思われ、『武士道』や『修養』を書かれたと思うのです。

『代表的日本人』を書いた友人の宣教師・内村鑑三も同じハリス牧師に洗礼を受けています。内村鑑三もカーライルが大好きでした。内村鑑三は自らの著書である『後世への最大遺物』の中で「カーライルの伝記を読むと、カーライルの一生に比べれば、カーライルの書いた40冊程の著作は価値が小さいように思える」と言っています。

続けて内村鑑三は「カーライルの一番有名な本は『フランス革命史』である。歴史家も、イギリス人が書いた歴史書では、この本が最もすぐれているものの一つだろうと言っている。読めば誰もがそう思うだろう。フランス革命をまるで目の前で起こっていることのように、映像が流れる



ように、いきいきと活写かつしゃしている。どんなにすぐれた画家がでも、そんな風ふうには描えがけないと思おもう。こんな本ほんが読よめて幸しあわせだと思おもうくらい価値かちのある本ほんである。けれども、カーライルがこの本ほんを完成かんせいさせるまでの苦勞くろうを書かいた伝記でんきを讀よむと、カーライルの一生いっしょうはこの本ほんよりも、さらにすばらしいと思おもえるのである」と言いっています。

カーライルはこの本ほんを書かくのに一生いっしょうを掛かけたといっています。本ほん自体じたいはそんなに長ながいものではないのですが、この本ほんを書かくためにあらゆる資料しりょうを集あつめて研究けんきゅうし、情熱じょうねつと勞力ろうりきを傾かたけて、何十年なんねんもかけて構想こうそうを練ねり、書かき上げた本ほんでした。カーライルが清書せいしょし終おわった時に友人ゆうじんが遊あそびに来きました。その友人ゆうじんが「読よませてほしい」と言いうので、「ちようど良よかった。意見いけんを聞きかせてくれないか」と渡わたすと、友人ゆうじんは一晩ばんかけて讀よんで非常ひじょうに感銘かんめいを受うけ、別べつの友人ゆうじんに又貸またがしをしま



した。別の友人は読んで机の上に置いて寝てしまいました。そのあとに家政婦さんが来て、ストーブに火をつけるのに丁度良い紙があると思ひ、その原稿を燃やしてしまいました。何十年もかけた労作が数分で灰になってしまいました。その後、又貸しをされた友人はびっくりして、借りた友人に「家政婦が燃やしてしまった。どうしよう」と言うのですが、「お金だったら同じ金額を返せばいい。家だったら建て直してあげればいい。原稿はどうしようもない。死んでわびてもダメだ。とにかく正直に言うしかない」ということで、二人はカーライルのところに行つて起こったことを正直に話して謝罪しました。それを聞いたカーライルは少しの間放心状態になりますが、すぐに気を取り直して、自分に「お前は愚かな人間だ。お前の書いたフランス革命史はそんなに立派な本ではない。一番大事なのはお前がこ



の不幸に耐えて、もう一度同じ本を書き直すことだ。それができればお前は本当に偉くなれる。原稿が燃えたくらいで絶望するような人間の書いたフランス革命史は、出版しても世の中の役に立たない。だからもう一度書き直せ」と発破をかけ、自分を奮い立たせてもう一度同じものを書き始めました。そうして世界史に燦然と輝く本ができたのです。ちなみにこの友人とは『自由論』を書いたジョン・スチュアート・ミルで、又貸しの相手はその恋人だったそうです。

私はこの話を内村鑑三の本で知って、これこそ修養だと感じました。

インド哲学、仏教学の第一人者であった中村元先生に似たエピソードがあります。

中村先生が二十年かけて一人で執筆していた『仏教語大



『辞典』の原稿約二万枚分を出版社がすべて紛失してしまつたのです。中村先生は謝りに来た出版社の人に対して一言も文句を言わず、「怒っても出てきませんから」と言われ、再び最初から書き直して八年がかりで完成させ、「やり直したお陰で、ずっと良いものができました。逆縁が転じて順縁となりました」と言われたそうです。

カーライルも中村先生もまさに修養の人です。大堪忍の人は、このような人物に一步でも近づくために私達は修養をしなければいけません。

最後に新渡戸博士の『修養』から引用させていただきます。

「日々の平凡な務めを満足に行い、続けさえすれば、一生に一度あるかなしかの大難題が起ころとも、これを解決するは容易である。ただ日々の平凡の務めを怠る者は、かか



る大難題に出会うと、はなはだしく狼狽し、策の出ずる所を失う。ゆえに難題の解決も、要するに日々の平凡の務めをなし遂げることによって初めてできることと思う」

「日々刻々の修養は、これをなしておる間はさほどにも思わぬが、それがだんだん集まり積もると、立派な人物を築き上げる。始めは苦しがりながら修養に勤めても、慣れてくると修養が身の肉となり骨となり、凡人と異なるところの人となる」

日々の修養、それは唱題、三徳の実行以外の何ものでもありません。

よろしくお願いいたします。



春のお彼岸です。

ご先祖さまに感謝の誠を捧げましょう。

法音寺本山は

3月21日(月・祝)午前11時から

春季彼岸会の法要が行われます。

皆さまのご参詣をお待ちしています。

◆今月の山首上人さまご親修日程

郡上八幡支院	3月8日(火)	一宮支院	3月12日(土)
大阪支院	3月13日(日)	上野支院	3月20日(日)
岐阜支院	3月24日(木)		

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	6日・13日・26日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	6日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・26日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	13日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0568)72-7208
一宮支院	5日・12日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	14日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	13日・20日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	5日・13日・26日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)65-3933
郡上八幡支院	8日・20日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(059)352-3633
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	1日・11日・20日	伊賀市上野向島町3-4-75	

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	6日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	13日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	6日・20日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	12日・20日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)421-0175
岡山支院	8日・20日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	6日・20日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	12日・27日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)621-5087
安芸津支院	5日・20日・27日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)451-4012
坂支院	6日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	6日・15日・20日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)441-5445
筑後布教所	13日・27日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)531-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)581-0742
田川支院	13日・27日	田川市春日町7-30	☎(0947)421-1819
名古屋地区	7日・17日・21日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・26日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)851-6860
亀岡布教所	14日・27日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)251-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

第五十回 青少年育成道場

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しておりましたが、育成道場を開催することになりました。本年は記念の五十回を迎えます。こころ新たに歴史ある道場には是非ともご参加ください。

日時 令和4年4月3日（日）

午前8時～午後2時

対象

15歳～35歳

（どなたでもご参加できます）

参加費 2000円

（参加費をいただきますが、納経帳に充てさせていただきます）

主なプログラム

① 【ご法話】

山首上人さまの

ご法話を拝聴できます！

② 【写経】

荘厳なる大本堂で

写経が体験できます！

③ 【体験談】

同世代の貴重な

体験を聴けます！

④ 【読経練習】

お経の解説・読み方・

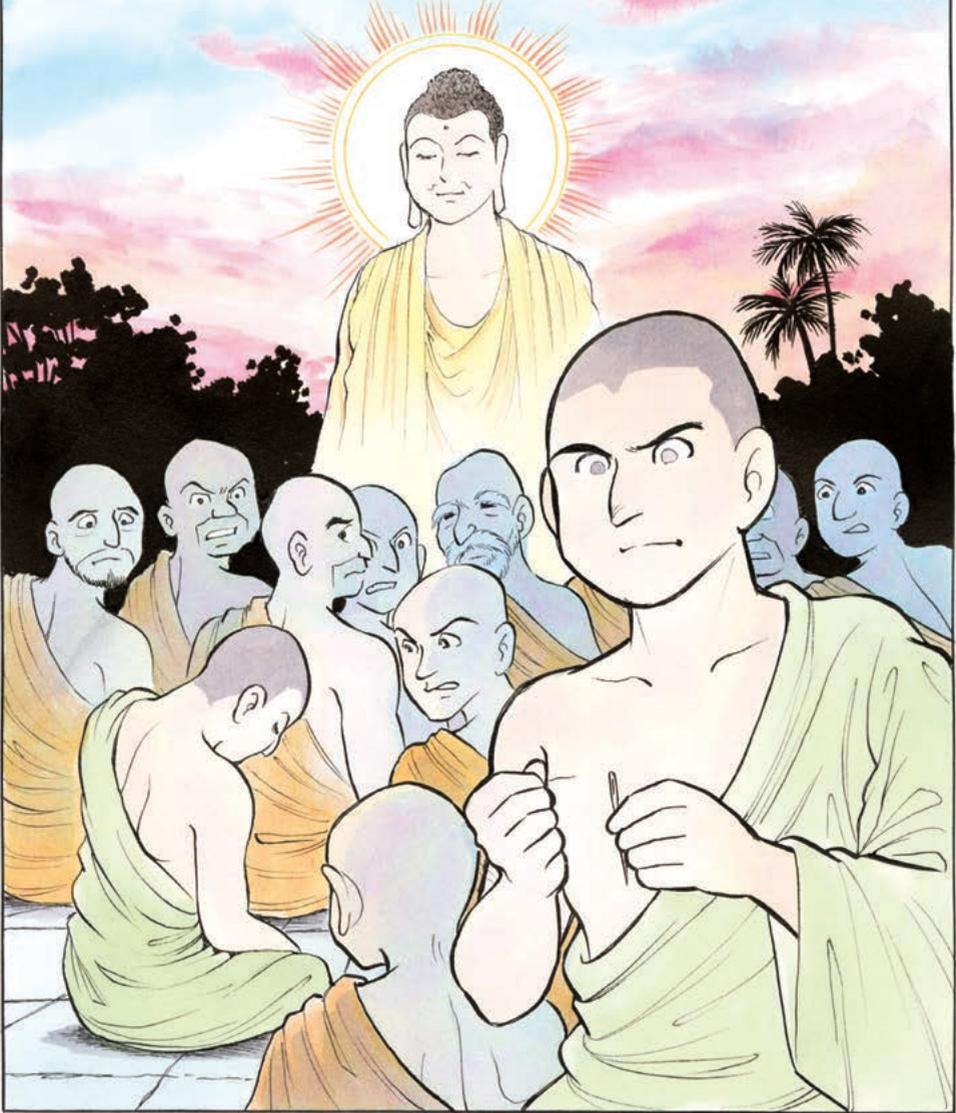
所作が学べます！

お申し込み・お問い合わせ 各支院・布教所まで。

青少年育成委員会

ぶつぎょうせつわ
仏教説話

とくつ しゅうてん
徳積みに終点はない







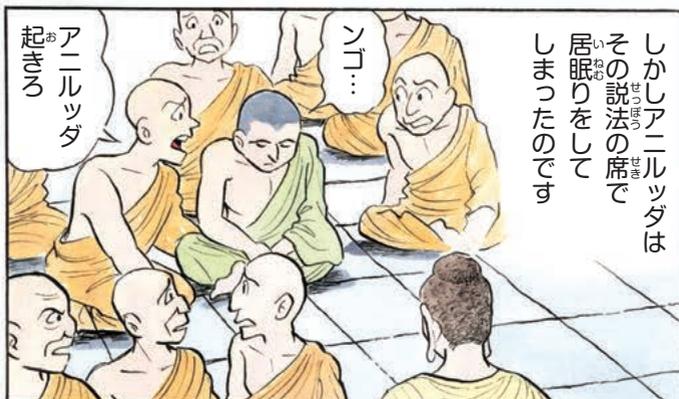
その中にアニルツダ(※)という弟子が
おりました



昔お釈迦さまが
多くの人々のために
説法をしておられました



そのままに
しておいて
やりなさい



アニルツダ
起きろ

ンゴ...

しかしアニルツダは
その説法の席で
居眠りをして
しまったのです

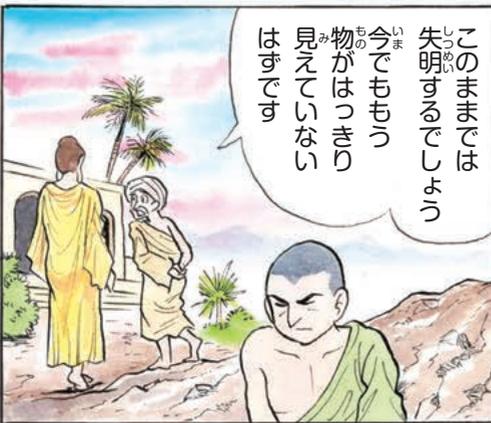


ああ：
私はなんてことを
してしまったのだ



え!?

説法は
終わったよ





しかしアニルツダは
それまで以上に修行に
精進しました



そしてとうとう
失明してしまっ
たのです



その結果
目の見えないアニルツダは心の眼が開き
世の中に起きるいろいろな出来事の
因果の理を正しくつかめるようにな
ったのです

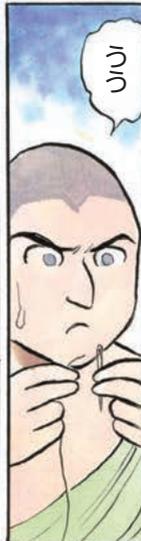
人々は彼を尊敬し
「天眼第一のアニルツダ」と
呼ぶようになりました



アニルツダよ
私が功德を積ませて
もらいまじょう



ええい
もう：
誰がこの針に糸を
通しさらに功德を
積もうとするものは
いないのか

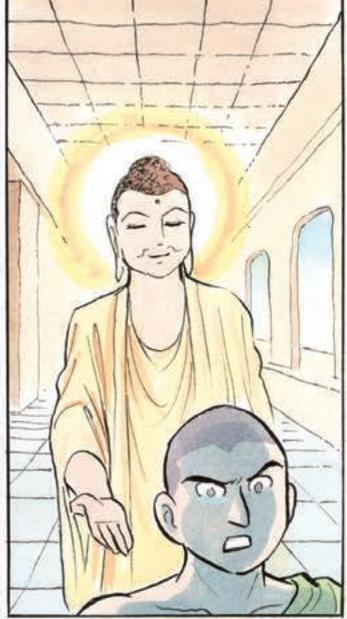


うう



あ こんな所…
ほころびが…





お釈迦さま!?



私は誰かこの世の求道者の中で針に糸を通して功德を積んでくださらぬか？ つぶやいただけで…

お釈迦さまにそのやうなことを思ひますらうと云ひます



アニルツダよ私は誰よりも功德を積みたと思つています

？

世尊と慕われ悟りを開いたお釈迦さまが

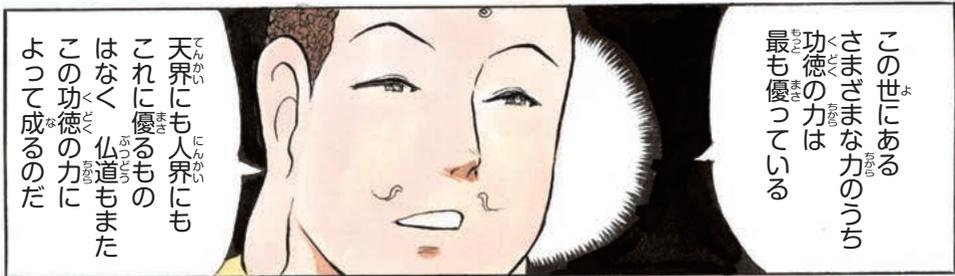
またさらに何の求めるところもないはず…何ゆえに功德を求めると仰るのでしょうか



アニルツダよ
たとはは布施は
これでよろしく
ことはなし

忍辱にはここまで
とこの限度がなし

真理の追求には
終わりとはいふものがない



この世にある
さまざまなかのうち
功徳の力は
最も優っている

天界にも人界にも
これに優るもの
はなく、仏道もまた
この功徳の力に
よって成るのだ



肉体の目は見えなくても
心眼はしっかりと尊く気高い
お釈迦さまのお姿をうらやまして



アニルツダの見えない目から
涙が流れ落ち



もうこれで
十分などということは
決まっています

功徳を積むことに
終わりはないんだよ



このお話からも
わかるように



お釈迦さまも
生涯にわたって功徳を
積みまれました

またお釈迦さまは
亡くなられてからも
ずっと私達を見守って
くださっています



生きている間も
亡くなったあとでも
頼りになるのは
功徳です

生きている間も
功徳は積めないから
今日一日功徳を積む
行いを心掛けなければ
いけません



さあ
一緒に徳を
積みましょ

はい!

はい!

はい!

おわり

仏教タイムスに『転法輪』が紹介されました

大乗山法音寺

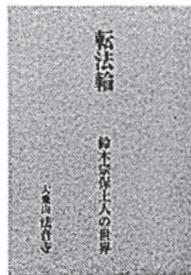
転法輪

鈴木宗保上人の世界

鈴木正修 監修

日本福祉大学を創立し、愛知県下で昭徳会を組織して社会福祉事業を展開した鈴木修学（1902～62）。その基盤となったのが日蓮宗法音寺である。法音寺は修学によって開山された。修学には二人の子息がいた。長男の宗音が法音寺第2世となり、次男の宗保は副住職に就いた。

本書は47歳で逝去した



宗保の「第43回忌御報恩浄業」として昨秋出版された。晩年、月刊教化誌に連載した法話を編集したもので、主に日蓮聖人の遺文を解説しながら法華経が実行の宗教である

ことを繰り返して説いていく。

例えば「孟蘭盆御書」

の解説では、「慈悲・至誠・堪忍の三徳を忘れないようにして、人に喜びを与え、自分も良かったと喜べる行いを実践することが肝要なのであります」と叙述。慈悲・至誠・堪忍の三徳は法音寺の前身である仏教感化救済会（杉山辰子創設）以来の中心的な徳目である。さらに「法華題目抄」の解説では、三徳と法師品の「衣・座・室の三軌」と

照合しながら説明していく。

伝統的な日蓮教学と法音寺の教えの結合が本書には示されている。同時に、親孝行に関する言及は、父（修学）を思慕しているようにも映る。福祉事業の根源にある法音寺教学に触れられる一冊である。（B6判・227頁・非売品、問い合わせは法音寺 ☎052-1831-7135）

知っているようで知らなかった!?

法音寺のこと ②7

自閉症分野への挑戦

昭和59年秋、愛知県民生部から「自閉症者」のための施設を開設することについての相談が宗音（日達上人）に持ちかけられました。その年は修学（御開山上人）の第二十三回忌にあたる年でもあり、宗音は顕彰事業の一環として取り組むことにしました。

当時の日本には、自閉症児・者が全国に十数万人いました。にもかかわらず、専門の収容・更生施設はほとんどありませんでした。なぜなら自閉症は障がい^がの現れがあまりにも千差万別であったために、昭和40年代に入るまで医療・福祉関係者の間で本格的な研究・論議が始まらなかったからです。ある意味で自閉症は、医療・福祉の新しい分野

でした。それまでは、自閉症者は三好学園・三好寮のような「知的障がい児・者施設対象者」と一括りにされていたのです。そのため、適切な指導・療育が受けられないまま社会に適応できず、苦しんでいる人や家族が大勢いました。

いずれにせよ自閉症に関しては未知の部分が多すぎて、治療どころか、指導・教育すらままならい状態でしたので、はっきりした目処を立てられなかったのも当然です。

確立した理論もなく、あらゆる面で模索段階。順調に立ち行く確証はどこにもありません。決して簡単ではない分野であるがゆえに誰も携わろうとしないのが自閉症の分野でした。



法音寺は仏教感化救済会時代から、時に採算を度外視しても、率先して困っている人達を救済してきました。「悉有仏性」、すべての人の中に仏性がある、という釈尊の精神が法音寺福祉の源流をなしているからです。

「困っている人がいたら、どんなことをしてでも手を差し延べてあげなさい」と語った辰子（始祖・安立大法尼）。

「如我等無異」という釈尊の金言そ



当時の泰山寮



平成29年に建て替えられた泰山寮

のままに、親のない子や知的障がい児をまとめて世話した修学（御開山上人）。

その施設は「泰山寮」と名づけられました。その名には、宗音の並々ならぬ決意が込められていました。

人はそれぞれ、能力においても違いがある。しかしながらすべての人は皆、尊い仏性を具えた仏さまの子なのだから、一人も見捨てることはできない。御開山上人の法名をその名にいただいた以上、名実ともに日本一の施設とするよう努力しなければならない。

前途は厳しいにもかかわらず、泰山寮は全国の医療・福祉に携わる人達に範を示していかなければなりません。その意味で、宗音にとっては新たな挑戦といえるべきものでした。

参考文献



『大乗山法音寺三徳
開教百年史(4)』



お寺の本棚

『法音寺の先祖供養』

先祖供養と罪障消滅

この現実社会で通用するものはお金であります。しかし、死後の世

界にも役立つのは、功德しかありません。先祖に功德を回向することは、遠くに住む子どもや身内にお金を仕送りするのと同じことなのです。

私どもが功德を回し向けることによって、先祖に徳が付きまします。徳のできた先祖はさぞ喜び、昼も夜も守護してくださるに違いありません。

万一、先祖に徳がなかったとしたら、守ってくださいさるどころか、邪魔をされるかもしれません。それではいけませんから、お題目を唱えて積んだ功德を先祖に送ってさしあげるのです。

先祖に功德を回向すると、罪障を消滅させていくことができます。

普通、徳を積むとひとりで罪障が消滅すると考えます。しかし、積んだ功德を自分一人の





ものにしたたら、多少は罪障消滅に役立つかもしれないませんが、それはわずかな効果しかありません。自分の身についた功德を人に回向し、喜んでいただくことによってこそ、大きな罪障を消滅させることができるのです。

罪障が消滅されますと、ちょうどガラスについた曇りが拭かれたように、物事の本当の姿が見えてまいりますから、考え方自体もよくなり、何かにつけて良い考えがたくさん出るようになってまいります。

自分のことだけを考え、〃オレガオレガ〃とと思っている内は、あまり良い考えは浮かんでこないでしょう。〃オレガオレガ〃という心の中に没入してしまいますと、何が大切なのか、さっぱり見えなくなってしまうのです。それが、功德が積まれ、罪障が消滅されますと目の前の曇りが晴れますから、何が本場で、何が大切かわかるようになるのです。必然的に、現実の悩みから解放され、次第に、喜び多い日送りができるようになるのです。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

久遠くおん偈げを学まなぶ③

くあらゆる現象の中に見られる

仏さまの所作く

諸の有ゆる功德を修し 柔和質直なる者は

則ち皆我が身 此にあつて法を説くと見る

或時は此の衆の為に 仏寿無量なりと説く

仏さまが 法を説く私の姿を見る」と言われていますが、目の前に金ピカの仏さまを見ることではありません。自分のまわりに仏さまの所作を見る」ということです。

自分のまわりの自分を助けてくださる人、諫めてくださる人、和ませてくださる人を見て、

「仏さまの所作」と感じる事ができるのであります。

仏さまは直接姿を現されることはありません。いろいろ化身の人を遣わされて「如来の事」を行ぜられるのです。ですから、自分の周りに起こることの中に、うれしいこともそうですし、逆に悲しいことも、自分を試し、鍛えるために仏さまがそうなさっている」という風に受け取りますと、どんなことであろうと落胆することなく乗り越えていくことができると思います。

「則ち皆我が身 此にあつて法を説く」とは
　　〴〵自我得仏来…〴〵 というように、お経を読んで
説かれるのではありません。自分の周りに起こ
るあらゆる現象、所作の中でそれはなされてい
るのです。悲しいこと、苦しいこと、いろいろ
な出来事の中に一つひとつ悟りを得ていくこと
が、〴〵善根功德を積んで柔和質直な心になつた
人にはできる〴〵と説かれているのであります。
　　悲しい時でも、その経験をもととして将来の
ために役立つようにするなら、悪く言えば 〴〵転
んでもただでは起きない〴〵と言いましょいか、
それが広い心、柔和質直な心と言えるのです。
　　すべてがそこまでいけば、これはもう大した
ものだと思うのですが、しかしどうしても私ど

も凡夫でありますから、いつもいつも広い気持
ちでいられるかというと、なかなかそうはま
りません。今日は良くても翌日には狭い心に逆
戻りして自分勝手なことをやっていますか
ら、次のようなことが説かれるのです。

久しくあつて乃し仏を見たてまつる者には
為に仏には値い難しと説く

　　仏の所作を周りに見るとは言つても、やはり
凡夫でありますからそう長続きはしません。長
続きしたとしても、本当にそのまま悟りにして
いけば良いのですが、続けばそれがあたりまえ
という、元の心に戻ってしまいます。自分勝手

とでも申しましょうか、そういう気持ちになりやすいものです。ですからそういう人には「仏には値い難し」と説かれるのです。

仏さまに会うことができない人には、〴〵仏さまの姿・所作を見るよう努力しなさい〴〵と、そして逆に、いつも救ってもらっていい気になってしまっているような人には、〴〵仏の道の修行はむずかしい〴〵という面も見せながら教化されるのです。

我が智力是の如し 慧光照すこと無量に
寿命無数劫 久しく業を修して得る所なり

仏さまの智慧の光は、私ども凡夫には、簡条

書にしたり数えあげたりすることはできない程
無量のものであり、またその寿命が無数劫とい



うことは、過去において仏さまが積まれた数々の善根から考えても、尽きることのないものである、ということがわかるのであります。

汝等智あらん者

此に於て疑を生ずることなかれ

当に断じて永く尽きしむべし

仏語は実にして虚しからず

仏さまの智慧の力、そして寿命の限り無いということを疑つてはいけないということです。

仏さまを信仰する上において、迷いの心は捨てなさい。仏の説くことこそ真実であつて、間違

いのないものであるということをしつかり心に

信じていきなさい」と仰るのであります。

聖徳太子のお言葉に「世間虚仮 唯仏是真」

ということがあります。世の中のことはみな仮・偽りのものであつて、ただ仏さまの教えだけが真実である」ということです。

この世の中、目の前で起こる現象はどんなことでも移り変わりしていきます。地位にしてもお金にしても、一時的には頼りになるかもしれませんが。しかし永遠に、そしていつもいつも頼りになるということはありません。

本当の最後の最後、いざという時に、いつも変わらず頼りになるものは、仏さまの教えであり、信仰しかないのであります。

ひろば

福祉の



SINCE 1912
SHOTOKUKAI



幸せのお手伝い

利用者さん・ご家族の方から 学んだこと

障がい者の入所施設に勤めてから10年が経ちましたが、初めて施設を訪れた時のことは今でも思い出します。

棟内の見学をした際に、ある利用者さんが私に話しかけてくれました。

その人は「〇※△、〇※△」と、知らない言葉を何度も言っていて、その一生懸命な様子が印象的でした。

障がいのため自分の意思を上手に伝えられなく

役割を果たし、日々、
業務に専念したいと思う



ても、伝えたいという思いはすべての人にあると思います。そして、言葉で意思を伝えることのできる私達は、どんな些細な内容でも怠らさず意思を伝えなければいけないと改めて感じました。

また、ある夜、一時帰宅を終えて施設に戻られた利用者さんご家族の対応をしました。後日、連絡帳にはご家族から私宛てのお礼の言葉がありました。当時はその利用者さんが所属する棟から離れて数年経っていました。それでも、今でも私の名前を覚えてくださっていたこと、いつもの何気ない対応であったにもかかわらず、お礼の言葉が書かれていたことがとてもうれしく、どんなことでも感謝の気持ちを忘れずに伝えることで、やりがいや、活力につながると感じました。

10年経った今も、利用者さんやご家族の方から学ばせていただくことがたくさんあります。私がかつてまで勤めることができたのも、色々な人に支えられてきたからこそ結果だと思っています。これから、学びを周囲に還元すると同時に、支える側としても役割を果たし、日々、業務に専念した

いと思います。

障がい者支援施設 泰山寮 生活支援員

園田 奈緒子



太鼓クラブを通して



写真提供・昭徳会

児童養護施設 名古屋養育院 ～好きなことを見つけてほしい～

名古屋養育院では3歳から19歳までの子どもが50人、地域小規模施設を含めると60人の子も達がさまざまな事情で保護者の方のもとを離れ、一緒に生活をしています。子ども達はそれぞれ複雑な生い立ちを抱えており、自分に自信を持つことができない子もいます。しかし、どの子もそれぞれにすばらしいところがあり、誇るべき長所がたくさんあります。当院では、そのような子ども達に、少しでも自分の好きなものを見つけてもらいたい。自分もやればできるんだと自信をもってほしい。という思いで院内クラブを立ち上げました。日々の生活や行事だけでなく、子ども達の趣向に合った取り組みを通じて、可能性や能力を引き出し、体と心を鍛える機会になればと考えています。

院内クラブには野球やソフトボールなどいくつかありますが、その一つに太鼓クラブがあります。太鼓クラブでは、施設の職員ではなく外部から太鼓の先生を招き、その先生の指導のもと毎月1回練習を

し、現在は希望する小学1年生く高校3年生までの21人がメンバーとして参加しています。ここ数年は新型コロナウイルス感染防止のために発表はできておりませんが、例年は地域の方々を招待して行っている「名養まつり」で発表し、「障害児



・者太鼓フェスティバル」でも発表の場をいただき、小原学園の子ども達と一緒に演奏させていただいています。発表のために、年間を通じて練習を行い、本番で素敵な演奏ができるよう、子ども達も頑張つて練習をしています。

太鼓の練習中、最初は自分が思うように叩けないことで拗ね、周囲の音に合わせられず自分勝手なスピードで演奏してしまう子もいます。しかし、何度

も何度も練習を重ねるうちに周囲を見て叩くことができるようになり、いつの間にか楽しそうに上手に叩いていることがよくあります。毎年、新しく何人かがクラブに入ってきましたが、自分と同じように太鼓が叩けなくて拗ねている新メンバーの子達に優しくゆっくりと教えてくれる子、励ましてくれる子が何人もいて、こんなに優しく教えることができるのかと子ども達の成長に驚かされます。

太鼓クラブで培える自信がどれだけ子ども達に影響を与えているかはわかりません。しかし、自分に自信がもてない、自己否定感が強い子ども達が太鼓を通じて、できることの喜びを感じ、少しでも多くのことを経験し、その中から自分の好きなことや自信がもてることを見つけたいと願っています。まだまだ至らないことばかりですが、子ども達が心豊かな人生を送れるような支援をしたいと思っています。

児童養護施設 名古屋養育院 自立支援担当職員

松岡 由貴

名古屋グランパスのホーム戦で運営サポーターを行いました

～日本福祉大学I部サッカー部～

本学は今年度後期、サッカーJリーグ・名古屋グランパス（以下、グランパス）とパートナー契約を締結しました。

グランパスのホーム戦（豊田スタジアム）の際に、車椅子席に本学の名前を掲載するネーミングライツ（命名権）を得るとともに、車椅子席の運営サポーターのボランティアに、学生スタッフを派遣することとなりました。



高浜安立荘での講習会の様子

写真提供・日本福祉大学

ことになったのは、本学I部サッカー部の部員達。スタジアムのことや観戦については詳しいものの、車椅子の方々をどうサポートしたら試合を楽しんでいただくことができるのか、全くゼロからのスタートです。

そこで、昭徳会の皆さまにご協力いただき、ボランティアに行く学生を対象にした事前講習会を高浜安立荘で実施しました。学生達は、職員の皆さんから直接車椅子動作や利用者への声掛けなどの指導を受け、支援の基本を学ぶことができました。



試合前の作業。豊田スタジアムにある車イス席にロゴを貼る作業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ボランティアとして参加できたのは、結果として3試合（8/15、10/24、12/4）となりました。部員達は観戦に訪れたお客さまに対し、自分達ができる最大限のサポートに取り組みました。お客さまとの交流はもとより、グランパススタッフの皆さんや他のボランティアとの交流などを通じて、誰もがふつうにスポーツ観戦を楽しむことができ、環境整備のためには、何をしたらいいのかを考える貴重な経験をすることができました。

お客さまからも「車椅子で来てもボランティアのサポートがある」と聞いてチケットを購入し、スタジアムに来ました。当日支えていただいた学生の皆さん



開場後は、スタジアム併設の駐車場で、車イス利用の方へ声をかけ、ニーズにお応えしました

に感謝します」といった声を寄せていただくことができました。

本学園の第3期学園・大学中期計画では、「スポーツ・文化の振興」を掲げています。学生や生徒達の活動そのもののさらなる推進

はもちろんですが、スポーツ・文化による地域振興や、誰もがスポーツ・文化を楽しめる環境創出のために、本学が果たすべき役割についても視野に入れて、今後活動を展開していきたいと考えています。

スポーツ・文化振興課長 伊藤 立



観客席まで誘導。試合中もトイレや売店までの誘導等を行い、試合終了後の誘導も行いました



幸せの種まき

苦しいことがあつて

初めて修行でき

仏に成る芽が育つのです

苦しいこと、つらいこと、気に入らないこと

すべては因果と悟り、心を広くしていきましょう

大乘山 法音寺

編集後記

今月号を編集している段階では、国内の新型コロナウイルス感染症の第6波が猛威を振るい、感染拡大が止まりません。ふと、この時代に先師の方々がいらつしやつたら私達に何とおつしやるのだろう、と思つて施本を手に取りました。

憂きつらき心にそわぬことをみな 善きに悟り
てよろこびを得よ (二祖 宗玄大徳御詠)

これこそ今の私達の心の支えとなる教えのよう
に感じました。身にふりかかることはすべて因
縁によるもの、と解釈し、不都合なことに遭つて
も、大難になるところを小難で済ませていただ
いた、と仏さまのご守護を喜び、その都度反省し、
悪因を善因に変えるように心掛けなさい、という
のが法音寺先師の教えです。

現状を仏さまのお諭しと見れば、私達は不安に
翻弄されることなく、みんなが困っているこの時
だからこそ、修行して善因をつくる機会をいただ
いたとも思えます。世の中が平穏を取り戻すため、
あなたもお題目を唱え、「破地獄」の経・久遠偈
を写経してみませんか。

ぐち 愚痴

竹中 淳







10年前、蓮が生まれたばかりの頃は、父さん、経子、蓮、私の4人でアパートに住んでいたの



父さんのいない昼間は、小さなあなた達の育児家事で母さん… てんてこまい



ただいま
シー、今寝たばかり

父さんが帰ってくると、母さんはその日一日のたいへんだったことやイヤなことグチをこぼし続けたのね



そりゃ大変だったね

そんな日がしばらく続いたら父さん… 無口になっていって、母さんと全く会話してくれなくなっちゃった



夕飯は？
どうしたの、なぜ？ 私もつとあなたと話がしたいのに…



あ：私だ、私がグチばかりこぼすから… そのせいね
私が変わろう、今日から…
グチって？



…うまくいかない時について出ちゃう、不平や不満かな
そうしたら数日後にね…



え！



どう
父さんも私が変わろうと
していたことわかっていて
くれたのね

ボクが見てるから
ゆっくり夕飯
食べなよ

ビール持って
来ようか？



母さん：ボク
タケルにグチャ
人の悪口いっぱい
言ってた！

そうかもね…
親しい大切な人や
友達と何でも
話せるということと

何を言ってもいい
とは違うからね



で…ボク
どうしたら
いいんだろ？



たとえば人って
親しくない友達との
約束はきっちり
時間を守るくせに

親友なら多少
遅れてもいいや…って
そんなことない？

大切な人こそ大事にしなきゃ
いけないのに なあなあに
なって 甘えちゃうのよね



すんだことは
変えられないから
今できることで
タケルくんが
喜んでくれることを
すれば？







おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





勇猛精進

相手を満足させればすぐ喜びがくる
相手をいたわれれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

SNSでつながる法音寺

法音寺公式
facebookで

毎朝7時

『一日一言』
配信中!!

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらのQRコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市中区駒方町4-10
TEL (052) 831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL (0569) 87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>



法音・令和4年3月号・No.629・令和4年3月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社